

全学学類専門学群代表者会議 第一回本会議 議事内容報告

作成者：諸星 優太

【日時】 2016 年 4 月 27 日（水）

【場所】 3A204

【出席】 全体 75 定足 38 出席 57 遅刻 0 早退 1

【資料確認】

配布資料一覧

- 16001『議事次第』
《議題①に関する資料》
- 16002『2016 年度議長団選挙に関して』
- 16003『学長決定「筑波大学の学生組織等について」』
- 16004『副学長決定「筑波大学における学生の組織及びクラス連絡会等について」』
《その他の資料》
- 16005『2016 年度委員会説明会資料』
- 16006『構成員の連絡について』

以上

【会議内容】

今回の第一回本会議では以下の議題を扱った。

議題①：2016 年度議長団選挙

以上

《議題①・2016 年度議長団選挙》

2015 年度副議長・落合が説明を行った。

選挙を始める前に、今年度の全代会監察役である体育専門学群 4 年山村及び社会工学類 3 年の佐藤を紹介する。監察役については資料 16004『副学長決定「筑波大学における学生の組織及びクラス連絡会等について」』の第 40 項～第 43 項を見てほしい。本日は選挙管理を行ってもらう。

まず選挙実施条件と選出条件について確認する。16003『学長決定「筑波大学の学生組織等について」』の第 23 項を見てほしい。本日の出席は 50 名以上であるので選挙を行う。この選挙では全構成員の過半数すなわち 38 名以上の得票を得た場合、候補者が選出となる。尚 2 人以上の立候補者が出た場合、決選投票を行うことがある。これについては後ほど詳しく説明する。議長団選挙の大まかな流れとしては議長選挙、副議長選挙の順に行う。尚、議長選挙が終わらなかった場合、副議長選挙は行わない。どちらも立候補者を募り、候補者演説、質疑応答の後、投票を行う。議長選挙について詳しく説明する。説明が終わり次第、

立候補者を募るが立候補者が1名だった場合、候補者演説、質疑応答の後信任投票を行う。この信任投票では、信任、不信任、保留をもって投票してもらう。信任が38票以上だった場合、その候補者が議長として選出される。不信任が38票以上だった場合、今年度の議長選挙への立候補は今後認めない。立候補者が複数名だった場合選挙を行う。相応しいと思う個人に投票をし、相応しいと思う候補者がいない場合については、全員不信任という投票となる。またそれぞれ良い点、悪い点があり決めきれないという場合に保留という投票となる。尚、片方不信任でもう片方は保留のように個人に対する選択肢は設けない。複数名選挙において、得票数が過半数を超える候補者がいない場合、上位得票者2名による決選投票を行う。立候補者が2名だった場合にも決選投票を行う。続いて、副議長選挙について説明する。副議長は2名選出するため、立候補者が2名だった場合、その2名の信任投票を行う。立候補者が3名以上出た場合、その中から1人を選ぶ選挙を行う。そこで過半数を得た候補者が選出となり、最少でも2回以上選挙を行う。

2015年度副議長・落合が立候補者を募った。

人文学類3年・宮内が議長に立候補した。

物理学類2年・鈴見が議長に立候補した。

人文学類3年・宮内が立候補演説を行った。

私は1年次では人文学類の副座長、2年次では座長及び広報委員会の委員長を務めていた。まず、2015年度における議長団と全大会の活動について大まかに説明する。議長団は新たな試みとしてクラス代表者会議議長メーリス（以下、クラ代議長メーリス）の作成、会議場所の変更等を行った。しかし、クラ代議長メーリスに関しては、会議内容を共有したというだけで活用はされていなかった。クラス代表者会議（以下、クラ代会）で挙げた議案が全大会で審議出来ることがあったり、また全大会で審議した内容を応援するクラ代会があったりとお互いにコミット出来たのではないかと考えている。

次に委員会についてである。全大会の委員会の中で、機能する委員会とそうでない委員会が存在していた。私の主観であるが、全大会の活動の根幹を成す教育環境委員会、生活環境委員会が機能していなかったように思える。学生生活に直接反映されるような議案の審議はほとんどされていなかった。逆に広報委員会、学内行事委員会、総務委員会といった全大会の内側に対して活動をする委員会が大きく機能していた。このような状況になってしまったのは、目的やスケジュールをきちんと定めなかったためであると思う。このままでは、全大会は何もしていない組織と思われてしまう。だから私は全大会を刷新して必要のある組織にしたい。全大会の目的は学生生活をよりよいものとするところであるにも関わらず、教育環境委員会や生活環境委員会といった学生生活に直接コミットするような委員会が機能しないことはありえない。またクラ代会から意見を吸い上げられていないという

こともありえない。私はそこを直したいと考えている。私は充実した学生生活を送りたいと考えており、それを根幹から支える組織というのが全代会であると思う。だから私は次のような施策を行う。

まずはクラ代とのつながりの強化を行う。これは毎年度言われていることであるが、私はしっかりと行う。具体的にはクラ代から直接意見を吸い上げるとともにアドバイスや手助けを必ず行う。次に、中身の伴った委員会業務にする。学長と全代会構成員との茶話会（以下、茶話会）に提出されていた資料に目を通したが、あのままでは中身の伴った委員会活動は出来ない。茶話会に提出するための活動計画及び実行計画を各委員会にきちんと定めてもらって、それに議長団からも指示をして少なくとも 1 年間で必ず成果をあげられるような資料を作ってもら。そしてそれを実行してもら。委員長たちが集まって行われる委員長連絡会で挙げる案件が無いような委員会にはさせるつもりはない。

物理学類 2 年・鈴見が演説を行った。

昨年度は物理学類の副座長として選出され、今年度は座長を務めている。委員会は広報委員の編集部に所属している。自分が議長に就任したら昨年度の議長団の活動から踏襲したいことが 1 つ、そして新たに組みたいことが 1 つ存在する。踏襲したいことは、議長団と全代会内部とのつながりの強化である。全代会内部というのは、各委員会に所属している構成員個人それぞれを指す。まず、委員長連絡に改善の余地があると考え。昨年度の委員長連絡会では、ランチミーティングの報告、茶話会や副学長と全代会構成員との懇談会（以下、副学懇）、そして予算承認などが主に議題として扱われており、それらはおおよそ報告に近いものでしっかりとした議論は行われていないと聞いた。そのような状況ではつながりに欠けており、委員会同士の連携もとれるはずがないと思う。だからそこで、議長団や委員会ごとに詳細な活動報告を行ってもらい、現状を委員長同士で共有し、活動に息詰まるような委員会があれば積極的に協力を仰ぎたい。それによって自分が所属していない委員会の活動についてもより理解を深め、同時に作業の効率化を図る。また、委員長連絡会での内容を他の構成員はほとんど何も知らされていなかった。そのような情報が共有されていないという問題から、機関誌へ委員長連絡会で共有された各委員会の詳細な活動報告を盛り込むことや委員長による所属委員会への議事内容報告の義務付けなどを行う。また各委員会の委員長と定期的に面談を行う。委員会の現状を議長団が知ることで、いかに補佐出来るかを検討する。これは議長団が全代会全体を俯瞰する上で最も重要なことであると考え。昨年度は全代会一年目の山村が議長を務めていた。一年目の者が務めたことによって、今まで経験によって凝り固められた全代会への意識のようなものが存在していなかった。それにより良い部分も悪い部分も生まれたと思う。その良い部分を踏襲したい。まず春学期中に一年生と積極的に関わりたい。議長団と一年生との懇親会の開催も考えており、全代会それ自体や会議のノウハウが分からない一年生との相談の場を設け

たい。昨年度も議長が一年生たちを食事に連れていくことがあり、それにより一年生同士の仲が深まった。一昨年話を先輩方に聞くと、一年生同士で仲良くなったのは10月に入ってからだったとのことだ。主な関わりも委員会内のみであったそう。それを阻止すべく、他学類及び他の委員会の者に関わってほしい。つながりが存在することによって会議に来るモチベーションも上がると思うし、一人で考えるよりも大人数でアイディアを出すほうがもちろん良い。そういったことを経験してほしいので関わりを多くしたいと思う。残っている2年生以上の構成員とは、全代会がどうあるべきか、いまの全代会をどう思うかなどを直接話し合って議論したいと考えている。

新たに取り組みたいことは各学類のクラス代表とのつながりの強化である。3年ほど前から、議長団とクラ代との面談や懇談会などが行われるようになった。クラス代表との連携の強化という方針は毎年出ており、少しずつではあるが実現できている。それについては先代が行ってきたことを踏襲したいと考えている。いままでの活動により議長団とクラ代たちとのつながりは確実に良くなっている。その次のステップに進むために、クラ代内部の組織とも関わっていききたい。例えば、昨年度の物理学類では第1エリアの自転車の台数についての議題が挙がり、それを福利厚生委員会が調査した。しかし台数を調査しただけで活動を終えてしまった。実のところ、クラ代だけではここまでしか活動できないと思う。そこで全代会内部の組織、例えば生活環境委員会などが補佐出来ればより活動の幅が広がると思う。1つの学類だけでは解決出来ない問題を全代会内部の組織が協力したり、全学的な議案として大学側に提出したりする機会を増やしたい。今まではクラ代議長とのつながりのみであったがクラ代全体と関わることで全代会は堅いといったイメージから脱却できるのではないかと考える。最後に全代会は議案の審議や委員会業務のみが仕事ではない。学生生活をより良くするための組織である。以上より自分は議長という立場から学生の意見を反映させるために尽力したい。

2015年度副議長・落合から質疑応答に関して注意があった。

挙手をした者をこちらから指すので、所属・学年そして誰に対してのものなのかを述べてから質問をしてほしい。尚、オブザーバーには座長団の質問が一通り終えたら指す。

〈質疑応答〉

質問：宮内に質問がある。会議をすることが目的化してしまう恐れがあるのではないかと。

また、クラ代会の改修を行うべきであるということは資料には載っていない。それは人文学類で感じていること、行っていることを押し付けることになるのではないかと。(社会学類1年・秋田)

回答：先に後者の質問に答えるが、私は全くもってクラ代会を毎週1回行ってもらおうとは言っていない。社会学類のように頻度が少ない学類に関してはそこでの議題をしつ

かりと挙げてほしい。もし社会学類で問題が無いから審議を行っていないというのであれば、それで問題は無いと思う。議題が挙げられた場合には、議長団側からコミットやアドバイスを積極的に出来たらと考えている。次に目的化するのではないかという質問に対してだが、自分はもっと学生生活に密着したやわらかい内容の議案が挙がっても良いと考えている。議案を挙げるのではなく何が問題なのかを審議してほしいのであって、議案を挙げるのが目的化しているわけではない。

(人文学類 3 年・宮内)

質問：立候補者 2 名どちらにも質問がある。まず宮内に対してであるが、鈴見の演説を聞いて自分よりも優れていると感じた点はあるか。(生物学類 2 年・吉川)

回答：1 年生とのつながりを強化したいという考えは優れていると思うし、全代会内部の雰囲気良くなり、委員会同士の連携も良くなると思う。しかし、根本的な解決にはならないのではないかなと思う。全代会が一年間でやることには限度があり、現在はそれを行うための基盤が存在しない。基盤をしっかりしなければつながりも重要ではあるが、意味を成さないと考える。情報共有という点についても、広報委員会は力を入れていたが、すべての情報をすべての人に開示されている状況は必要であると思う。それは当たり前のことであると考えていたので演説には含まなかったが、鈴見と同意見であると感じた。(人文学類 3 年・宮内)

質問：同様に鈴見に対して、宮内の演説を聞いて自分よりも優れていると感じた点はあるか。(生物学類 2 年・吉川)

回答：刷新と言っていたように、単年度組織である全代会において目的をしっかりとスケジューリングするという点は優れていると思った。(物理学類 2 年・鈴見)

質問：宮内に質問がある。クラ代から議案を吸い上げると言っていたが、社会学類・秋田の質問の際に、無いならそれで問題は無いと意見を変えた点が理解できない。また無ければ吸い上げるも何もないのではないかな。その場合の方針を知りたい。

(工学システム学類 1 年・小林)

回答：クラ代会は本来、問題があるから行われている。クラス代表者会議で案を挙げて審議をするという『学長決定「筑波大学の学生組織等について」』(以下、『学長決定』)や『副学長決定「筑波大学における学生の組織及びクラス連絡会等について」』(以下、『副学長決定』)には反してしまうが、そこで問題が無いのであれば開催する必要はない。しかしあるから開催しているので、そこで出た議案などをより良い形で吸い上げていく。もし社会学類で問題が起きていたら、クラ代会を開いてもらいたい。開きたい場合であれば、自分からもコミットをするし、開くべきだという提言もするつもりだ。ただ無理に開く必要はないと思う。(人文学類 3 年・宮内)

質問：問題があるからクラ代会を開いて、議長団へ挙げてそれをまた返すというのは意見を引き出すということにはならないのではないかな。その矛盾を知りたい。

(工学システム学類 1 年・小林)

回答：学則ではクラ代会は会議を開くものであるとされている。審議していない場合については、なぜ審議していないのか、審議が行われていない状況を把握してアプローチを進めるつもりだ。(人文学類 3 年・宮内)

質問：立候補者どちらにも質問がある。2 名ともクラ代会との連携を施策に挙げているが、そこで挙がる議題というのは学類によって異なる。他学類とはあまり関係のない議題についてはどうするのか。また全 25 学類・専門学群の現状をどのように吸い上げるのかを知りたい。(情報科学類 2 年・小島)

回答：学類の管轄では解決出来ないという問題も出てくると思う。ある学類で挙げた議題が、今後他学類でも同様に挙がるということもありうる。そういった場合には議長団がその意見を巻き取って上に挙げることが出来る。また、本当にそれだけしか問題はないのかというようにコミット出来ると思う。(人文学類 3 年・宮内)

質問：全 25 学類・専門学群の現状はどのようにして把握するのか。

(情報科学類 2 年・小島)

回答：クラ代会というのは、学類によって様々な頻度で行われていると思う。自分は少なくとも週に 1 回は現状を把握したいと考えている。開いていない学類に対しては、開いている学類と同じタイミングで問題は無いのかとアプローチをかけ、他の委員会と協力して現状を調査出来ると思う。実際に把握する方法については、現在はメールで行っているが、全代会からクラ代会宛てにアンケートをとることも可能だと思うし、また座長団やクラ代議長との面談を通して現状を把握するつもりだ。

(人文学類 3 年・宮内)

回答：他学類とはあまり関係のない議題については、宮内は他学類に少しでも関連性があれば吸い上げていくと言っていた。自分は少し違って、学類内で解決出来る問題だからといって全代会が放置するというのは理にかなっていないように思う。ある学類で審議されている議題を他学類が以前審議していて、意見交換が出来るといったような機会をつくるためにクラ代議長の懇親会を開きたいと考える。無理に全代会が吸い上げることもない。情報や現状のみ報告してもらうよりも他学類や全代会と意見交換をする場を設けていきたい。後者については、宮内と同様に面談も引き続き行いたいと考えている。具体的な差異としては、メールでの定期的な報告などは考えていない。それは形式化してしまう恐れがあると思うからである。面談については、まず議長団選挙が終わったらクラ代議長との面談を考えている。そこで聞きたいのが、クラ代の現状や活動についてである。そして活動方針や人数、過去の活動経歴などを聞きたい。他学類との意見交換も充実出来るように今年は懇談会の機会をもっと増やしたいと考えている。クラ代議長との交流も重きを置いて考えている。全代会の議長団というのは根本的な考えや方針はどの年度も同じであると思う。自分は新しいことを無理に始める必要はないと考えていて、先代が行ってきた活動やノウハウなども活かして議長を務めたい。(物理学類 2 年・鈴見)

意見：現状把握をしたらそのままと言っていたが、そうではなくて現状を把握した後で必ず返信をする。なぜそうするのかというと、そうしないと吸い上げられていないのと同じであると思うからだ。現状は形式的に把握するのではなくて私がどれだけ把握しているかが重要であると思う。また、つながりというのはとても重要なものである。この考えは 30 年ほど前からずっと言われていて、変わっていない。徐々に良くなっている部分は必ず存在すると思う。しかしその段階の中で私の大学生活は終わってしまう。皆さんの大学生活は段々良くなっている状態で終わってしまう。私は今の大学生活を充実させたいと思う。そこで必要なのが抜本的な改革である。だからこのような演説を行ったということを理解してもらいたい。

(人文学類 3 年・宮内)

意見：段々と良くなっているが今は良くならないというように聞こえたが、30 年もの間とても多くの方たちが考えてきた問題を自分たちの一年間だけで解決出来たら、そのように長い間審議されていないと思う。少しずつでも良くなっている認識出来るのであれば、そのつながりを切ってはいけなし、出来ることから一つずつやっていくということを言いたい。(物理学類 2 年・鈴見)

質問：宮内に確認をとりたいのだが、資料にクラ代会を開かなければいけないとは書かれていない。また、2 人ともクラ代会と全代会とのつながりを強化するという考えは一致しているが、それぞれ独立している組織であると思うのだが、どれだけ介入するつもりであるのか。(社会学類 1 年・秋田)

回答：全代会という組織はクラ代会が開催されていることが前提で開かれている。だからクラ代会というのはそもそも開かれていないとおかしい。独立した組織であることに関しては、自分はクラ代会の中で解決できるのであればそれで良いと思う。もしより良い方法があるなら全代会の方に挙げてほしい。それぞれ独立した組織であるということは自分も同意見で、対立まではしていない、そういった組織構造であると思う。自分は鈴見ほどクラ代会にはコミットしないと感じさせる演説であったと思う。そこまでしようとすると、学則に反したクラ代会の改善から必要になると思う。今年度中にはまかないきれないと考えているのでそこまで取り組むつもりはない。(人文学類 3 年・宮内)

回答：どこまで介入するかについてであるが、議長団が意見を言うのではなく懇親会などを通して意見の交換を行ってほしい。そこで生まれるものに期待して、こちらからは無理には指示は出さずつもりはない。話し合いを促すまでの介入を考えている。

(物理学類 2 年・鈴見)

質問：2 人に 1 つと宮内に 1 つ質問がある。まず宮内に対してだが、具体的に生活環境委員会と教育環境委員会の 2 つの委員会に対して意見を述べていたが、構成員の数を把握しているのか。(生物学類 2 年・吉川)

回答：生活環境委員会がおそらく 4 人で、教育環境委員会が 5～6 人だと把握している。

(人文学類 3 年・宮内)

質問：その人数であると思うが、宮内が行おうと考えている刷新により 2 つの委員会に伴うタスクというのは、その人数で捌ききれんと思うか。(生物学類 2 年・吉川)

回答：捌ききれないと思う。実際に広報委員会は捌ききれず、専門委員を募っている。専門委員というのはその仕事に興味を持って入ってくれている学生たちであると思う。魅力的だと感じてくれる学生が専門委員を務めくれるように、委員会にはしっかりとした業務をしてほしいと思う。もしそれでも無理な場合であれば、議長団からもコミットするし、出来る範囲の活動計画を立ててもらう。

(人文学類 3 年・宮内)

質問：改めて 2 人に質問するが、全代会における会議の出席状況は良くないと思う。本来 75 名で活動すべきであるが、縮小化してしまっているというのが現状である。このことを問題視するか。そしてそれに対する解決策はあるか。(生物学類 2 年・吉川)

回答：問題視はしている。会議に参加していない理由はそれぞれあると思う。しかし無理に参加する必要はない。意見が無いのであれば参加する必要はないし、そのでないのであれば参加してほしい。また、議題に興味をそそる内容で審議しなければならないというものであれば参加すると思う。楽しいと感じる学生を入れたいと思っており、そのために学生にとって楽しい議題を審議していけたらと考えている。それが一番の解決策であると思っている。(人文学類 3 年・宮内)

回答：もちろん問題であり、何年も問題視されていることである。先程の宮内についても言えることだが、人が来ていないから足りないという状況となっている。1 年生がどうしても来なくなってしまうことが多いので、1 年生同士の交流を多くしたい。交流が深まることによって会議に出席するモチベーションにもなると思う。そういった面から改善していきたい。(物理学類 2 年・鈴見)

意見：2 人が述べているのは来ていない構成員を来させるよりも、来ている構成員を離さないような方針であるように思える。来ていない者に対する方法も考えてもらいたい。

(生物学類 2 年・吉川)

質問：宮内に質問がある。意見が無ければ来る必要はないと述べていたが全代会とは各学類の代表者が審議すべき場であるのに、そのような考えはどうかと思う。

(物理学類 1 年・佐藤)

回答：国会でもあるように来ないことが戦略という場合もある。学類にとって有益でない議題に関しては出席しないということもありうると思う。出席しなくてもよいというのは面倒だから来ないという構成員に対してではない。(人文学類 3 年・宮内)

質問：戦略についても理解できるが、意見を交わす場である全代会において学生の意見を代表する議長という立場である上では、出席しなくてもよいという意見を正当化してはいけないと思う。(物理学類 1 年・佐藤)

回答：全学生の代表としてそういった考えをもつ者がいても構わないと思う。

(人文学類 3 年・宮内)

質問：宮内が議長に就任した場合、そういった考えをもって臨んでいるとこちらは認識してもよいか。(物理学類 1 年・佐藤)

回答：構わない。しかし欠席する理由などは必ず述べてもらう。(人文学類 3 年・宮内)

質問：欠席者に理由の説明責任を働かせるということで間違いはないだろうか。

(物理学類 1 年・佐藤)

回答：今現在行っているメーリスのシステムを引き続き利用する。(人文学類 3 年・宮内)

質問：鈴見に質問がある。昨年度は議長が一年生であったとは本当か。

(応用理工学類 1 年・藤原)

回答：昨年度の議長は 3 年生であるが、全大会の構成員としては 1 年目であるという意味で述べた。(物理学類 2 年・鈴見)

質問：応用理工学類の座長団はすべて 1 年生である。自分の偏見であるかもしれないが、昨年度の座長団に所属していた 2 年生が 1 年間で満足して、新 1 年生に職務を任せたと認識している。この全大会に問題があるからこのような状況になってしまっているのではないか。(応用理工学類 1 年・藤原)

回答：応用理工学類の座長団がすべて 1 年生であることについては、各学類・専門学群に選出・説明責任者が存在する。新たに座長団を選出する際に、「全員が 1 年生ではないといけない」や「2 年生以上は残らなくてはいけない」といったような規則は存在しない。様々な理由で 2 年生以上が残ることが出来ないという場合もありうるけれども、座長団が何もかも初めてである 1 年生のみで構成されているという状況は良くないと思う。またそれは全大会に原因があるのではないかという意見についてだが、委員会を含めて週に 2 回ほど全大会の仕事がある。全大会それ自体に問題があるとすればそこだと思う。しかし来たくないから来ないといった者に関しては全大会に非はないと考えている。今この場に来ている学生たちは各学類の代表として出席しているのであって遊びに来ているわけではない。そうであるのに気まぐれで欠席して良いものではない。完全に出席できないのであれば、クラ代などと話し合いをして再選出も視野にいったほうが良いと考える。(物理学類 2 年・鈴見)

質問：宮内に 2 点、両者に 2 点質問がある。まず宮内に対してであるが、委員会活動を増やすとはどのように増やすのか。また、委員会の活動のシステム及びクラ代会から意見を吸い上げるシステムについてであるが、それらは来年度以降も残せるようなシステムであるのか。(情報メディア創成学類 2 年・村田)

回答：1 点目については、確実に成果が上がるような活動に焦点をあてて行ってもらいたいと考えている。自分は教育環境委員会と生活環境委員会が全大会の活動の根幹として必要なものであると考えていて、問題に対する活動やアンケートが行われるがその期限や目的をしっかりと定めてもらいたいと考えている。そして 2 点目について

は、委員会できちんとした活動をしていた構成員はそこに残ると思う。そのサイクルを定着させたいと考えている。(人文学類 3 年・宮内)

質問：クラ代会から意見を吸い上げるシステムについてはどうか。

(情報メディア創成学類 2 年・村田)

回答：昨年度、自分はクラ代としてそれ以前のクラ代の活動を参考にしていた。そのように次年度に引き継いでいけるように行いたい。それが出来ないのであればこちらからもアドバイスをするつもりだ。(人文学類 3 年・宮内)

質問：次に 2 人に質問する。座長団もクラ代会も機能していない学類に対してどのようにアプローチをかけるつもりであるのか。また、2 人が述べる施策はどちらも議長団だけではまかなえない仕事量だと思うのだからどうか。

(情報メディア創成学類 2 年・村田)

回答：機能していない学類については、まず選出責任者がいたのかどうかの問題である。今現在選出の報告がない国際のような学類については抜本的な改革が必要であり、私自らその学類に飛び込んでいくつもりだ。そして、なぜ来ないのか、本当に問題は無いのかを説明してもらいたい。もう 1 点についてであるが、議長団で捌ききれない問題であれば各委員会に振り分ければ良いと思う。議長団の活動の範囲外にある仕事は委員会に振り分けるということをとるつもりだ。(人文学類 3 年・宮内)

回答：1 点目については、クラ代会というのは存在しクラ代議長もいると思うので、まずは議長にアプローチをかけるつもりだ。全代会に出席しないことは問題であるので、それについては出席してもらうようにアプローチするつもりだ。また、先程自分が演説で述べたことは全て議長団内で振り分けられると考えている。もし出来ないのであれば、委員長連絡会を通してそれぞれの現状を把握したうえで委員会に手伝ってもらえば良いと思う。(物理学類 2 年・鈴見)

質問：両者には全代会がクラ代会の上部組織ではなく、クラ代会から選出された学生により構成されているということを押さえてもらいたい。その上で、宮内が述べていたような上下関係は撤回してもらいたい。また学則に反していることについて明言していたが、全代会議長が学則に反している・反していないことの判断をし、処分する権限はないということも知ってもらいたい。自分は鈴見の考えを、全代会議長がクラ代議長同士の間をとりもつ立場にあるととらえた。宮内の場合は、全代会が上に立ってクラ代会の意見を吸い上げ指示するというように聞こえた。その上で宮内に質問がある。座長団はそもそもクラ代会から来ているにも関わらずなぜクラ代の議長にそういったアプローチをかけるのか。(知識情報・図書館学類 2 年・平井)

回答：座長団が機能していればクラ代議長にアプローチをかける必要はないということで間違いはないか。(人文学類 3 年・宮内)

質問：そうともとれるが、議長にアプローチをかけるというのは座長団を信用していないからではないか。そのような考えを持った者が全代会の議長を務めて良いのだろうか

か。(知識情報・図書館学類 2 年・平井)

回答：あまり信用できない状況であると思う。機能している座長団もちろん存在するが、そうでない場合は議長にアプローチをかけるのが良いと考えた。座長団が機能している学類、機能していない学類のように状況に応じてアプローチをかける対象を変えろという発想が自分には無かったため、一括してクラ代議長に尋ねるとした。上下関係については撤回する。(人文学類 3 年・宮内)

〈投票〉

議題①：2016 年度議長団選挙

A (宮内) : 6
B (鈴見) : 38
C (不信任) : 5
D (保留) : 6
白票 : 1

以上

※採決時の座長団の人数は 56 名

上記の通り、議題「2016 年度議長団選挙」において、物理学類 2 年・鈴見が 2016 年度議長として選出された。

2015 年度副議長・落合が説明を行った。

時間の都合上、本日は副議長選挙を行わない。

【委員会報告】

***2015 年度議長団**

- 本日配布した委員会配属希望調査用紙を見てほしい。これは座長団の新 1 年生が所属を希望する委員会を調査するものである。これから各委員会が簡単に活動の説明を行うのでそれも参考にしてほしい。
- 5 月 11 日 (水) に副議長選挙を行う。5 月 8 日 (日) に全代会研修会を行う。これは座長団には原則参加してほしい。3A417 で 14 時から行う予定である。
- 会議終了後、写真撮影を行う。全体写真と各学類の写真を撮るつもりだ。

***総務委員会**

- 第一回本会議の資料印刷及び出席確認メールを送った。

＊学内行事委員会

- 各種会議への出席及び学園祭テーマ公募案に関する書類の朱入れを行った。

＊教育環境委員会

- BRIDGE～他学類・専門学群の授業をうけてみよう～の作成及び受け渡し、ミーティングを行った。

【諸連絡】

(総務委員会・島ノ江)

- 本会議の数日前に会議出欠に関するメールが届いたと思う。これは総務委員会が本会議への出欠確認を、メーリングリストを通じて行っているものだ。今後もこれを利用する。